

学校だより



令和4年度11月号



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

なつのがくも

第158号 (R4. 10. 31)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

「最初の一步・次の一步」のきっかけ

校長 宮林 伸之

4年生は、総合的な学習の時間で「光が丘エコクラブ」の学習を終えました。この学習では、現在地球で起きている問題について知り、興味・関心のあるテーマについて調べ、まとめます。調べた内容は多岐に渡っていました。例えば、空気の汚れ・食品ロス・絶滅危惧種・地球温暖化の原因・日本と外国のごみの量の違い・海のプラスチック問題・SDGs（持続可能な開発目標）…などです。

そして、自分にできることを具体的に考え、述べていました。いくつか紹介いたします。

「食品ロス」を調べた子は、「買い物に出かける前に、冷蔵庫等の在庫を確認する。」

「絶滅危惧種」を調べた子は、「外来種を勝手に逃がさないようにする。」

「地球温暖化」を調べた子は、「使っていない電化製品は電源を切り、誰もいない部屋は電気を消す。」

「海のプラスチック問題」を調べた子は、「日本で一番海のプラスチックごみが多いのは東京都だからプラスチックごみを減らすようにしたい。」と…最初の一步を示しました。

私は、地球環境の問題を考える時いつもアルピニストの野口健さんの行動を思い出します。皆さんもご存じの通り野口さんは、1999年、25歳でエベレスト登頂に成功し、当時の7大陸最高峰の世界最年少登頂記録を樹立した方です。野口さんは、お父さんの転勤によって幼少期から様々な国を転々とし、なかなか勉強に集中できず、荒んだ生活を送っていたそうです。そんなある日、書店で登山家である植村直己さんの「青春を山に賭けて」という本に出会います。そして、「自分も山に登りたい」と志を立てたのです。その後は、富士山をはじめ国内の山々を登り、17歳のときに、アフリカ大陸の最高峰キリマンジャロを登頂。この時に「世界7大陸の全ての最高峰に立つ」との夢を抱き挑戦し始めたのです。その後、前述しましたように夢は叶うのです。

野口さんが環境問題に関心をもったきっかけは「見てしまった」からだと言います。それは、エベレストに登るたびに、ごみが目につき、中には日本語が書かれたごみもたくさんありました。海外の登山家からは、「日本人はだらしない」「ヒマラヤをマウント・フジのようにするな」などと言われ悔しい思いをされたそうです。それを見返すために、清掃活動を始めたのです。

その後、野口さんは、富士山清掃を開始するのですが、雪で覆われた富士山しか登ったことがなかったので、汚いなんて思いもよらなかったそうです。そこで、夏に登ってみるとごみだらけ。青木ヶ原樹海は、不法投棄されたタイヤの山、注射器などの医療廃棄物もあり、異臭が漂っていたそうです。そこで、2000年から本格的に富士山清掃を開始。当初はやってもやってもごみは減りません。しかし、協力者の増加とともに4年目あたりから減り始め、今では、5合目から上は、ほとんどごみはなくなったとのことです。

野口さんは、「物事の変化は、じわじわと進んで行くものです。5歩進んだと思ったら、4歩下がってしまうときもある。でも0にはならない。最初の一步は残っています。それを足がかりに次の一步を踏み出す。そうやって続ける中で大きな変化になっていくのです。」と…。

私は、「環境を大切にすることは、生命を大切にすること、未来を大切にすることに通じる」と考えます。4年生の発表が4年生だけにとどまらず、光が丘夏の雲小学校の子供たち・保護者の皆様の「最初の一步・次の一步」のきっかけになることを願っています。